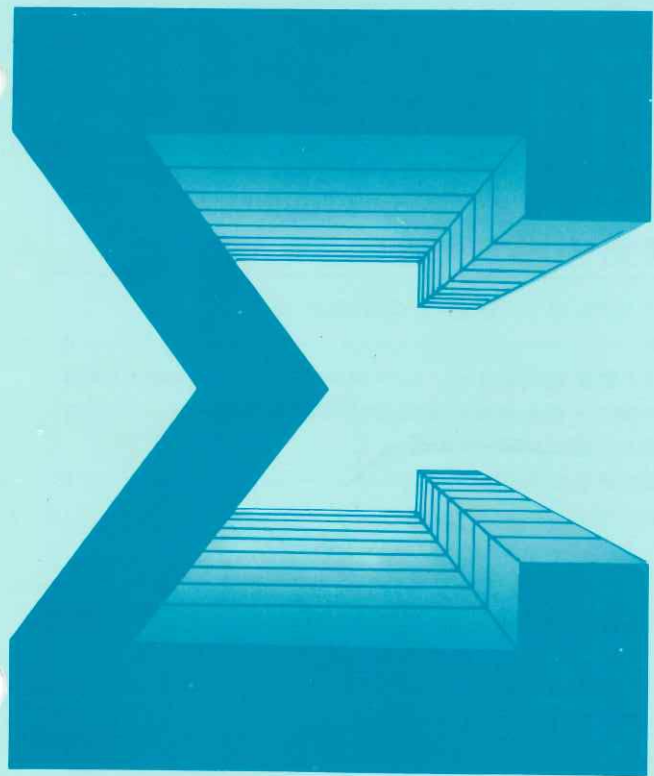


需要家のためのI.B.ニュース

シグマ

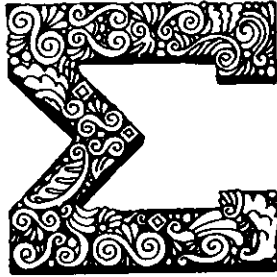


【18】イワタボルト

1976. 8

NO. 22

18



——シグマ No.22 目 次——

—〈シグマ〉 海外報告—

シカゴの1976デザイン・エンジニアリングショウに参加して

時代の課題と役割を反映..... 1

全米350社余が出品・イワタボルトの展示に関心と興味

デザイン・エンジニアリングショウに展示された

3 Mの機械めつき装置..... 6

〈海外の話題〉 輸入制限と物不足再来と..... 7

イワタボルト第20番目の拠点・北九州市に福岡出張所誕生..... 7

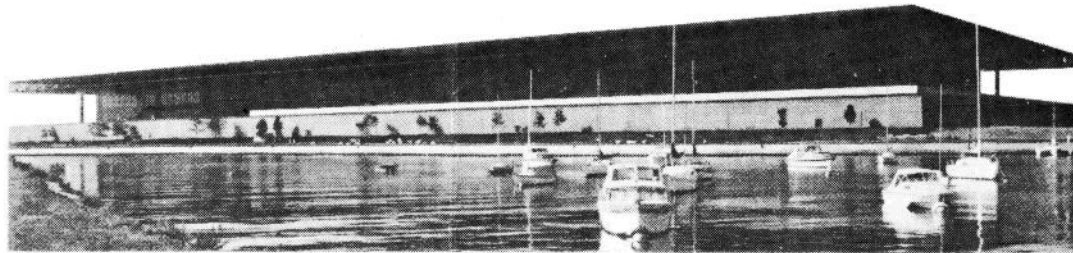
走るソフィット・北に南に年間28,000キロ走破

動くミニ展示館に各地で大きな反響..... 8

誌名 〈シグマ〉 の由来

〈シグマ〉はギリシヤ語のアルファベット第18番目にあたるΣ(sigma)から取ったものですが、Σは微積分では総体の和を現わす記号ともなっております。そこで、1)「ねじ」は物を締めつけて完成品に仕上げる重要な部品ですから、総体の和を支えるものといえます。そして 2)私たちは、総体(トータル)でものをみ、伝票では買えないものをサービスして、総体のコスト(トータルコスト)を下げることに協力します。このためには、3)「ねじ」を供給する私たちと、それを使用される皆さんとの間に、密接な和を必要とします。こうした私たちの3つの願いをこめて名づけられたのが〈シグマ〉です。

〈シグマ〉 22号 昭和51年8月1日発行
編集・発行 岩田ボルト工業株式会社長室



☆会場のシカゴのマッコーマック・ブレース☆

シカゴの 1976デザイン・エンジニアリングショウに参加して

時代の課題と役割を反映

全米350社余が出品、イワタボルトの展示に関心と興味

アメリカの機械産業界年中行事の一つである1976 Design Engineering Showが、去る4月5日から8日迄の4日間、シカゴのマッコーマック・ブレースで開かれました。イワタボルトは一昨年、昨年に引きつぎ各種の製品を展示しましたが、これま3回にわたり参加した日本ねじ工業協会関係の10数社が今年は出品を取り止めましたので、日本のねじ企業で参加したのはイワタボルトだけでした。このデザイン・エンジニアリング・ショウは ASME (American Society of Mechanical Engineers) の略称。アメリカ機械技術者協会) が主催して行うもので、すでに22年という長い歴史を持っており、その時々アメリカの産業界の課題や使命を象徴するものとして知られています。これと併行して技術に関する会議やセミナーが開かれその報告や論議は注目されています。イワタボルトはこの展示会に立合として橋正司(埼玉営業所々長)並に藤井靖男(富士営業所々長)を派遣、通訳として岩田聖隆(本社・岩田社長長男)を同行させました。一行は展示会終了後、社用で取引先企業その他も訪問しましたが、以下は橋と藤井による報告の概略です。

近代的技術を誇る 一大デモンストレーション 日本からはイワタボルト1社

4月2日に羽田を出発し20日に帰着するまで18日間にわたるアメリカ出張でしたが、展示会での立合、それが終わった後の諸々の社用も、通訳に当られた聖隆氏の見事な応待と接衝に助けられて、まずは無事大任完了という感じです。何しろ初の海外経験でもあり頭の中に整理し切れぬものも残っていますが、展示会の模様や訪問先の印象など思いつくままに印してみます。

まずデザイン・エンジニアリング・ショウですが、会場のマッコーマック・ブレースは一昨年も開かれた所です。会場の広さといえ環境といえ、また交通の便といえ、誠に恰好な所で、明年の展示会もここで開かれる予定といわれます。展示会には350社以上のメーカーが参加しましたが、出品の内容は完成品というより部品や構成部品が大部分を占め、その範囲も広汎にわたっております。ねじ部品を始め機械部品、電気や電子部品、樹脂やゴム部品、油圧関係部品、接着剤、めっきや被覆剤やその装置等々でそれこそアメリカの近代的技術やエンジニアリングの一大デモンストレーションといった感じでした。とくに今年は、省エネルギー、安全性、公害防止といった点に展示が絞られている感じで、この展示会がその時代時代の課題や問題点を反映している感じが感じられました。

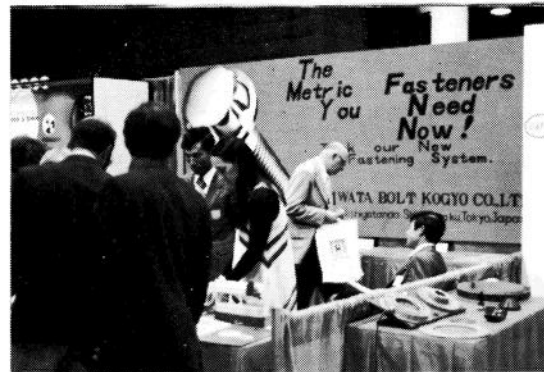
またこの展示会全体を通じて出品各社がそのディスプレイに心憎い程の気配りをし、参観者の視覚に訴えようとする努力は学ぶべきものがありました。それに感心したことは主催側の参観者に対する配慮です。何しろ出品が広範囲にわ



☆インフォメーションセンターは自分の見たい製品を立ち所にコンピュータではじき出して教えてくれる☆



☆イワタボルトの展示コーナーはラインヘッドのパネル写真の前に各種特殊品を展示した。左が橋、右が藤井☆



☆イワタボルトの展示コーナーは參觀者が引きも切らず、あれこれと質問がつき応待に汗だく☆

たり会場も広いと、とくに何かに関心を持って探すのに一苦労します。そこで今年初めての試みだそうですが、インフォメーション（受付又は案内所）にオンライン方式のコンピューターを設け、見たいと思う製品をいうとコンピューターではじき出し、どこどこのコマへ行くというのがあるかと教えてくれるようになっていました。それこそ、さすがアメリカと感心した次第です。

ねじ部品関係で参加したのは20数社程度ですが、日本でも馴染み深い会社や製品も少なくありませんでした。ゆるみ止ナットのエスナー社、溝付ピンのグループピン社、ナイラッチのハートウエル社、クイックファスナーのズース・ファスナー社やシモンズ・ファスナー社、ポップリベットのUSM社、ブラインドリベットやイ

ンサートのタウンゼン社等々ですが、その他エルコ・インダストリーズ社は冷間圧造による各種の特殊部品を、モノグラム・インダストリーズのオハイオ・ロッド・プロダクツ社も冷間圧造の各種ボルト、リベット、スタッドなどを、フェリ・キャップ&セット・スクリュー社は12ポイントのキャップスクリューを、ウェケッサ社はナイロン製のボルト・ナットを展示していました。また私たちには初耳の会社ですが、ジェット・ファスナー社はセルフドリリングタイプのタッピンねじ SpaDril や、ねじ部と座面に工夫を施したゆるみ止ボルト Knurlok といった新製品を展示していたのが目をひきました。

ラインヘッドと メートルねじに質問と関心 見積りなどの問合せも予想以上

さて、イワタボルトの出品は今年で4回目ですが、しかも前3回と違ってねじ企業としては日本からの、唯一の単独出品だったわけですね。ねじ企業以外でも現地の日系企業が3社出品した程度ですから、海を渡って遙々日本から参加した企業はイワタボルトだけということになります。

出品の内容はラインヘッドを始めフランジナット、ナイロンナット、スプリングナット等々ですが、パネルに大きくラインヘッドを配し、「今あなたの必要とするメートル・ファスナー」と英文で訴えたのは、中々印象的だったようです。ラインヘッドについてはツールなどの点に



☆質問もラインヘッドに関する技術的な内容からメートルねじのことにまで及ぶ☆



☆ゆるみ止めファスナーで有名なエスナー社のコーナー☆



☆ポップリベットでお馴染みのUSMファスナーグループの展示コーナー☆

ついて突込んだ質問を受けましたが、その他の製品についてもカタログや見積りの要求など合わせて300件以上に達したのは私たちとしても予想以上でした。

質問でとくに印象が深かったのは、メートルねじに関するものです。アメリカがインチ・ポンド制からメートル制に移行するに伴い、ねじ部品もこれ迄のインチねじがメートルねじに切り換えられることは私たちも承知していましたが、われわれの展示品を通じてメートルねじにこれ程深い関心と興味を示すとは思いませんでした。私たちはインチねじからメートルねじに変わるといっても、変わるのに長い時間を要するだろう位に考えてもそれ程大問題だとは思いませんでした。だがよく考えてみるとこれは物の尺度が変わるだけでなく、考え方とか見方

で変わる位の大きな問題です。例えば日本で尺貫法からメートル法に変わることを考えてみると分ります。これはメートルで教育を受けた私たちには想像もできない大問題なのだろうと思えます。長い間身についたものがまるっきり変わってしまうわけで、そういえばアメリカではこの切り換えに伴う教育や訓練が大きな課題になっていると聞きましたが、うなづけます。

7部門に分れ技術問題の報告会

締付問題の報告と論議も

この展示会で私たちは立合の合間をみては交替でいろんな展示品をみて廻り、そこは商売気を出して目ぼしいものが何かと気を配りましたが、不勉強の故か中々見当りませんでした。予

めかなり目標を立てて見て廻った積りですが、そうざらにうまいものが転がっているものではないことが分りました。

そういう商売気は一応別として、このデザイン・エンジニアリング・ショーで忘れてはならないことは、展示会に併行してコンファランスとセミナーが同じく4日間にわたって開かれたことです。これには全米各地から技術者、設計者、管理者などが集まり夫々の部門に分れて報告発表や論議が行われるわけで、今年とはとくにファスニング・アンド・ジョイニング（締結と接合）に関するコンファランスも4月5日と6日の2日間開かれました。私たちは立合の関係で、というと体裁よくなりますが、正直云って聞くだけの知識も語学力もないことから敬遠した形になってしまいました。ただその概要は一



☆フェリ・キャップ&セットスクリュー社は毎回12ポイントのカウンタポアを強調。隣にグッドリッチ社のリブナットがみえる☆



☆1日タッチの提携先デニソン社の展示コーナー☆



☆さて今日の予定は、と会場の外で一思案する岩田聖隆☆

応報告しておきます。

この会議では2つの全体会議の外に7部門に分れたコンファランス、それに2つのセミナーが行われました。全体会議のテーマはアメリカ産業界が当面する技術上の問題点や課題を象徴しています。一つは“アメリカの技術的指導性に明るい陽が昇りつつあるか”、今一つは“宇宙開発に於ける今後の設計上の諸問題”。セミナーはとくに現在問題になっているものの中から工業用プラスチックと電子制御の問題がとりあげられました。コンファランスは7部門に分れ、夫々の部門の中で興味深い幾つかのテーマがとりあげられました。例をあげると「一般的工学・管理」のコンファランスでは生産性の向上、製品安全性向上の設計、騒音管理、「資材・被覆」のコンファランスでは経済性と安全性の

ための被覆、「設計技術と分析」のコンファランスでは設計分析技術の進歩などです。

私たちに関係ある「締結と接合」コンファランスで次のような問題がとりあげられました。

- ★ボルト頭部形状評価の基準……Richard C. Landt (SPS プロジェクト・エンジニア)
- ★製品の最低保証に関するファスナー検査基準……Harry S. Brenner (アルメイ研究試験社社長)
- ★有効な接合コントロールシステム……Robert J. Finkelston (SPS 主任プロジェクト・エンジニア)
- ★ねじ接合体の疲れ改善のメカニズム……Stephen C. Ford (バツテル・コロンバス研究所主任研究員)

この外この部門では接着剤に関する2つのテ

ーマがとりあげられました。

「ボルト頭部形状評価の基準」というのは、ねじ部品の軽量化、材料節約、接合の緊密化を計る上でボルト頭部形状の設計が如何に大きな役割を果たすかを論じたものであり、「有効な接合コントロールシステム」はトルクコントロールをコンピュータにより適正化を図ることを論じたものでSPSがその装置の開発に大きな力を注いできた問題です。その他の問題は残念ながら資料を入手できませんでしたが、何れにせよ切角の機会を語学力と理解力の不足から参加できなかったことは悔まれてなりません。



☆マクリーン・フォッグ社を訪問。広々とした土地に緑の芝生が美しい☆



☆ポータケット社を訪問した後デビッド・ハーシュー社長らと記念に1枚☆



☆スコビルブラインドリベットはこのアジャックス・ハードウェア社で作られている☆

マクリーンフォッグなど数社を訪問

フォードのデトロイト工場も見学

5日から8日まで4日間のデザイン・エンジニアリング・ショウを終り、まず第1の大役を果たしましたが、つずいてマクリーン・フォッグ・ロックナット社、インガソルランド社、エジャックス社、ポータケット・ファスナー社を社用で訪問し、更にフォード自動車デトロイト工場を見学しました。

マクリーン・フォッグ社は日本でも名前の知られたロックナットの専門メーカーで、昨年で創立50年を迎えた、アメリカでは比較的歴史の新しい会社です。イリノイ州マンダレーンにあるこの工場は、広々とした土地に青々と広がる

芝生が印象的でした。この工場はいわゆるスタンダードのナットは殆んどなく、フランジナット、ロックナット、ピアスナット等々すべて特殊品で、附加価値の高い製品を量産しています。大きな倉庫を持ち、約60日分、個数にして2億個の製品を常時在庫して商売していると聞きました。

インガソルランド社はニュージャージー州のフィリップスバーグにあるロックドリル工場を訪問しました。削岩機のユニット工場でありまたポンプ製造工場です。ここでは熱間鍛造品又は鋳造品が殆んど機械によって仕上げられ、それもNCを利用して行われていました。1台が3,300万円とか6,000万円もする機械を、1人のオペレータが2台受持ち24時間稼働させているとのことでしたが、これによってコストダウン

をし競争に勝つのだと語っていたのが印象的でした。インガソルランドというと締付装置などを始め国際的に活躍している大企業ですが、その成長の秘密をかい間見る思いをしました。

ポータケット・ファスナー社はロードアイランド州ポータケットにある工場ですが、創業以来90年以上という古い会社です。アイボルト、Tボルト、根角ボルトなどが主で、M16までは冷間、それ以上は熱間で製造していました。材質はステンレス鋼が全体の80%ということでした。不足分とかナット、ワッシャ、キャップスクリューなどは日本から輸入しているようで、ステンレス材も日本のものが材料倉庫に積まれていました。日本の材料は品質が良い上に安いと大変評価していました。

エジャックス・ハードウェア社はカリフォル

ニヤ州シティ・オブ・インダスリーにある工場
でスコビル社の1部門です。訪れた日がグッド
・フライディといって復活祭の前の金曜日に当る
所から会社が休み。止むなくセールス・マネジ
ャーのジームス・デリッコ氏に連絡をとって
もらい、ホテルのロビーで会し用事をすませ
ました。このエジャックス社はイワタボルトが
販売しているスコビル・ブラインドリベット
を製造している工場、スコビル社が、労使
関係のこじれからエジャックス社にブラインド
リベットの生産を移したものです。大体1日100
万本の生産をし3週間分位の在庫を抱えている
ようです。現在アメリカでブラインドリベット
のメーカーはいろいろあり、その中のビッグス
リーというとポップ、マーソン、それにスコ
ビルとのことでしたが、スコビルの製品が普
及しているのは、品質が良いこと、利用し易
いこと、アフタサービスのよいこと、しかもポ
ップなどより値段が安いことなどを理由とし
てあげていました。

以上、取引先の会社訪問の外にフォード自動
車デトロイト工場を見学しました。普通なら工
場見学ツアーという形で行くわけですが、未だ
行われていないといわれ、直接デトロイトの工
場に出かけた訳です。見学できたのは圧延工場
とコンパクトカーの組立工場です。

圧延工場では、インゴットされた厚さ約500
ミリ、巾2メートル、長さ5メートルの鋼塊を
再度温めて圧延している所を見せてくれました。
その圧延の早いことは驚ろくべきで、そのため
インゴットの再加温を2機利用で交互に行っ
ていました。

コンパクトカーの組立工場ではとくに自動供
給装置の使用状況に関心がありましたが、私た

ちの見た範囲では殆んど眼にふれませんでした。
ラインの傍らにねじ類をおき、手でエアドライ
バーを使用して作業していました。使用されて
いるねじ類では、ボルトはフランジ付又はセム
スタイブ、ナットはフランジ付のタフロック式
のロックナット、タッピンねじも座付きが眼に
つきました。またスピードナットやタッピング
ナットなど鋼板ナットもかなり使用されていま
した。先に訪れたポータケット社の話では、
デトロイト工場よりも他の工場の方が設備が近
代的で参考になるのではないかとのことでした

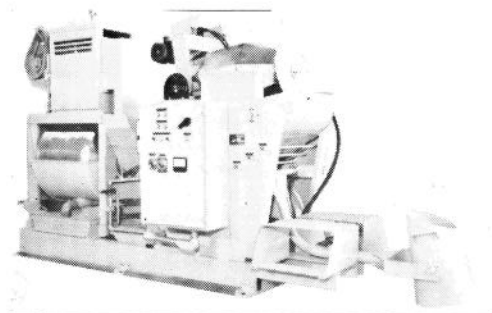
が、それでも私たちにはアメリカ産業の中核を
占める自動車工場の生産の一端を眼の当りにし
たのは印象的でした。

以上が18日間にわたるアメリカ出張の大きづ
ばな報告であり印象記です。未だどうまとめて
いいか整理し切れぬものも多々ありますが、こ
れらは少くとも自分たちの心の中で徐々に整理
し形づけていきたいと思ひます。それが今後
の仕事の中で何ほどこ生かされていくものと期
待しつつ。

デザイン・エンジニアリング

ショウに展示された

3Mの機械めっき装置



最近アメリカで従来の電気めっき(electro-
plating)に代る機械めっき(mechanical plating)
が関心と呼んでいますが、シカゴのデザイン
エンジニアリングショウには3M社がこの装
置を展示しました。3M社の機械めっきはコ
ールドウエルド・プロセスと称され、めっきを
する部品を回転槽の中で水と金属粉と細かい
硝子ビートと特殊な化学促進剤とでかきまぜ
るのですが、何よりも大きな特徴は、電気め
っきに伴う廃水処理につきものの公害問題が
起らないこと、被覆が均一でかつ水素脆性の

問題が起らないこと、更には部品の機械的物
理的性能が著しく向上、めっきコストも安く
つくことなどにあるとされています。3M社
のめっき装置は1503型メカニカル・プレーテ
ング・センターと称され、清浄、めっき、ク
ロメート処理、乾燥など一切を連続的に行い
ます。アメリカではすでにフォード自動車そ
の他の自動車メーカーが関心を示している
といわれ、とくにフォードでは金属被覆を要す
るファスナーを硬度Rc30以上にする場合、必
らずこの方法に依るべしとされています。

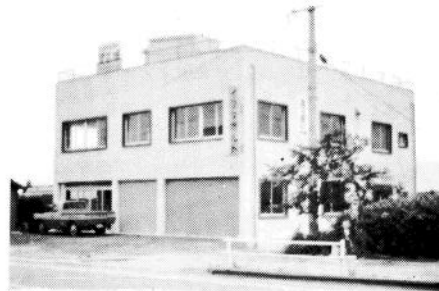
輸入制限と

物不足再来と

■アメリカでは日本からのねじ製品の輸入を制限しようという動きが再び活潑になって来た。昨年もこうした動きがあり国際通商委員会(ITC)に新通商法に基きエスケープクローズ適用が要請されたが「輸入品が国内生産を脅かす程にはなっていない」という判定であった。所が年をこえると、今度は日本製品が政府の補助金や援助で安く米国市場に輸入されているから、これに見あうだけの輸入関税を賦課すべきだ、という要請が財務省に出され、現在調査が行われているが、今年の秋に暫定的決定来年春には正式な結論が出されることになった。またこれとは別にナットだけを対象に輸入を制限し

ようという動きも出ている。この反面、開発途上国から米国市場への輸出が数年来きわめて積極化してきた。韓国、台湾、インド、スペインなどは最も活潑で、中にはアメリカのねじ企業が現地企業と合弁会社を作って輸出するケースもふえてきた。つい先頃インドにもこうした工場が設立された。世界のねじ輸出量の中3分の1は日本製品で占められている程、日本のねじ輸出は活潑だが、今後はかなりきびしくなりそうである。内も外も日本のねじ業界は大きな変り目に直面しているわけである。

■再びねじ不足の時が来る!?こんな予想をしている人がいる。アメリカのあるねじ企業の社長だが、鉄鋼などにもそういう声があるという。また全米有力企業より成るある経済団体もそういう物不足の再燃を懸念する見解を表明している。つまり米国の景気回復の速度から供給能力が一時不足になりかねない、というのである。一時的にせよもしそうなったとしたら、その後に来る反動は、先頃の反動所ではなくなりそうである。果してどうなるか。日本では安定経済とか低速経済とかいわれているがある程度の安定をみるまでは、長い時間がかかりそうである。



イワタボルト第20番目の拠点 北九州市に福岡出張所誕生

福岡出張所は今年の3月、九州工業地帯のメッカ北九州市にイワタボルト20番目の拠点として産声をあげました。これでイワタボルトは、北は仙台から南は九州まで全国的に販売網をもつことになったわけで、需要家の皆様方の要求に応える体制が一段と充実しました。

場所は小倉駅より国道10号線を10キロ程南下した右側です。所長は川崎支社の岩田支社長が兼任し、今の所男性3名、女性1名のささやかな陣容ですが、何れ劣らぬ若さとファイトの溢れたスタッフで、ソフィ(最適締結システム)を合言葉に九州地区はもとより中国地方まで足をのばし活潑に活動を展開しております。

九州地方の産業は、昨年新幹線が博多まで開通するに及んで急速に変貌、到る所工場や事務所の建設が進められています。またイワタボルトの主要な納入先の一つである日産自動車も、京都郡(みやこのぐん)苅田(かんだ)の広大な敷地に九州工場としてフルライン建設の準備を進めており、その完成の晩には九州の産業界は更に飛躍的な発展をとげることが期待されます。

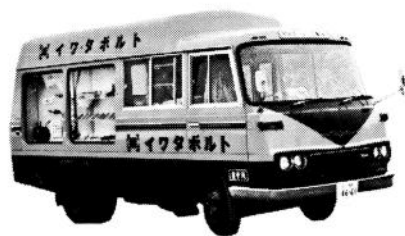
開所して日浅い福岡出張所ですが、皆様方の御指導と御鞭撻をお願い申し上げます。

岩田ボルト工業(株)福岡出張所
〒800-02 北九州市小倉南区葛原191-3
TEL 093 (472) 3 2 5 2
TELEX 7124-30
出張所責任者 川原秀幸

走るソフィット

——北に南に年間28,000キロ走破——

動くミニ展示館に 各地で大きな反響



イワタホルトの展示車ソフィット（SOFIT）が動き出してから1年を迎えました。昭和50年7月1日福島出張所をスタートしてから51年6月25日現在で、巡回先は北は山形県酒田市の電子工場から南は岡山県の自動車メーカーや弱電メーカーまで260社、走行距離も28,600kmに及んでおります。この1年間を顧みるといささか感慨にたえぬものがあります。ソフィット号が走った初めの頃は、社内でもやれキャンピングカーだ、やれレントゲン車などと嘖したてる声もでて一体この先どうなるのかと半ば不安の気持ちもありましたが、方々を巡回している中に予想以上にユーザーの反響が大きく、それに伴って各営業所の人たちの考え方も変わってきた様です。それと共にイワタホルトならではの着想と先見に改めて誇りと自信を深めました。

さてソフィット号による展示活動は次のよう

な内容でスタートしました。

- ①インガソールランド・ドライビング・システム
- ②ハイオス電動ドライビング・システム
- ③スコービル・ブラインドリベッティング・システム
- ④MFピアシングナット・システム
- ⑤ナショナル・自動ねじ締めシステム
- ⑥ラインヘッド・ドライビング・システム
- ⑦IBタイ、IBタッチ
- ⑧IBK埼玉工場製ITねじその他各種ファスナー

巡回の反響も様々でした。ユーザーを訪れても折悪しく仕事の関係で5、6名しか参加しない時もありましたが、3時間位時間をとり、各職場から代表者が30名位ずつ交代で、80名から100名も参加してくれたこともあります。また、



ソフィットは思いもかけぬ珍客であった。話は職場から職場へと伝わり興味と関心の眼が集ってくる。至る所でソフィットは歓迎された。

展示説明が終わった後にイワタホルトの方針や展示製品について改めて説明会が開かれ、その日はその1社で終わったこともあります。

巡回する場合には、私たちは予め相手先の状況を正確に把握し具体的にどう展開するか検討しあいましたが、とくに夫々の地域の営業所の営業員の人たちと十分な打ち合わせをした上で行動するように心掛けました。こうした事前の気配りなり対策が展示会の成果に反映した例も少なくありません。

展示巡回に対する反響を、ユーザーの意見の中から幾つか拾いあげてみますと——

1. この様に進んだ考え方をしている会社なら安心してまかせられる。
2. 営業員に何度も足を運んで貰わなくとも、展示車をみれば一目瞭然とお互いの手間が省ける。

3. 実演、サンプル、カタログが用意されているのでアクションが早い。
4. ユーザーの技術、購買、製造など広い範囲のセクションの担当者が同時に接触し説明を聞ける。
5. イワタホルトがどんな会社かどんな方針か、説明を聞くまでもなく展示車をみれば分る。

以上のようなことで、反響も予想以上にありましたしある程度の実績として反映されました。勿論、初めての試みではあり私たちいろいろな経験もしましたが、少なくとも今後の方向について自信を深めたことは事実です。第2年目は恐らくもっと広い地域にわたってソフィットを走らせたいと思っております。新たな目標に向けて発車、オーライ!



イワタボルトはあなたの会社の ネジ・コンサルタントです

| | | | |
|---------------|--|--------|--|
| 本社及 五反田事業所 | 東京都品川区西五反田5丁目3番4号 TEL 東京(493)0211(大代表) TEX 246-6253 郵便番号141 | 群馬出張所 | 群馬県高崎市中尾町491番地 TEL 高崎(0273)(23)5060・5061 郵便番号375 |
| 板橋出張所 | 東京都板橋区赤塚4丁目6番4号 TEL 東京(938)6445(代表) 郵便番号174 | 大阪出張所 | 東大阪市高井田1419番地 TEL 大阪(06)(788)1466・1467 TEX 527-7475 郵便番号577 |
| 名古屋出張所 | 名古屋市西区野南町78番地 TEL (052)(502)7761(代表) TEX 444-3983 郵便番号461 | 川崎支社 | 川崎市幸区南幸町2丁目72番1号 TEL 川崎(044)(52)4101(代表) TEX 3842-168 郵便番号210 |
| 浜松支店 | 静岡県浜松市寺島町492番地 TEL 浜松(0534)(54)5381(代表) TEX 4225-195 郵便番号430 | 横須賀出張所 | 神奈川県横須賀市長浦町1-2 TEL(0468)(23)2724 郵便番号234 |
| 多摩営業所 | 東京都昭島市福島町380番地 TEL 昭島(0425)(41)5534(代表) TEX 2842-174 郵便番号196 | 富士営業所 | 静岡県富士市久沢字峰畑841番地 TEL 吉原(0545)(71)3588・2380 TEX 3925-487 郵便番号419-02 |
| 藤沢営業所 | 神奈川県藤沢市今田字西原352番地 TEL 藤沢(0466)(44)1277・1278 TEX 3862-124 郵便番号252 | 仙台出張所 | 宮城県名取市田高字井成9 TEL 名取(02238)(4)0265 郵便番号981-12 |
| 厚木出張所 | 神奈川県厚木市下荻野518 TEL(0462)(41)7021番 郵便番号243-02 | 福島出張所 | 福島県郡山市富久山町久保田170-5 TEL 郡山(0429)(33)6609 郵便番号963-06 |
| 草加営業所 | 埼玉県草加市花栗町533番地 TEL 草加(0489)(25)1131(代表) TEX 2972-075 郵便番号340 | 福岡出張所 | 北九州市小倉南区葛原1991-3 TEL 北九州(093)(472)3252 TEX 7124-30 郵便番号800-02 |
| 字都宮出張所 | 栃木県宇都宮市竹林町字高田1081-6 TEL (0286)(33)0271(代表) TEX 3522-320 郵便番号320 | 埼玉工場 | 埼玉県八潮市木曾根1139番地 TEL 草加(0489)(95)1331(代表) TEX 2972-029 郵便番号340 |
| 埼玉営業所 | 埼玉県北本市北中丸字上手2192番地 TEL 鴻巣(0485)(91)2212(代表) TEX 2942-437 郵便番号364 | 埼玉第二工場 | 埼玉県八潮市伊勢野150-1 TEL 草加(0489)(96)9302・9256 郵便番号340 |

【18】 岩田ボルト工業株式会社